

第1回神戸市海洋産業振興に関する有識者会議 議事要旨

日 時：2023年5月31日（水）10:00～12:00

場 所：神戸市役所1号館14階 第4応接室

議事要旨：神戸市の海洋産業の振興を目指すうえで、これまでの取組を振り返り、顕在課題を糸口に、神戸らしい海洋産業とは何か、神戸の強みを活かしてどのように実現させていくかなど、幅広く議論し意見をいただいた。

○主な意見

【神戸らしい海洋産業】

- ・ 神戸と言えば、「港」「ファッション」のまち。「ファッション的海洋」というイメージがマッチする。
- ・ 山から見た港も神戸のイメージ。景観（観光）も海洋としてとらえることができる。
- ・ 神戸大学海洋政策科学部は、他都市に無い強み。「ものづくり拠点」という基盤もある。

【海洋産業の捉え方】

- ・ 海洋は専門の人だけが取り組んでいるイメージがあるが、もっと裾野を広げて捉えるべき。
- ・ 欧州では、海洋産業として「再エネ（洋上風力等）」と並んで「レジャー」「観光」が大きな割合を占める。
- ・ 最近、「藻」が注目されており、食材としておしゃれなレストランとコラボしている事例もある。神戸は海と山が近いので、海が見えるホテル、海の食材をつかった食事を売りにしている宿なども海洋の産業と考えて良いのではないか。
- ・ ブルーカーボンとして期待される「藻」は、医薬品・化粧品・バイオ燃料といった素材としての魅力に世界が非常に注目している。バイオ分野であれば、医療産業にもつながる。
- ・ 異分野の企業が参画することで、新たな海洋産業につながることもある。
- ・ 水中ロボット操作は、潜水経験が無いと実海域での操作が難しいなど、潜水土作業と水中ロボット技術の共存が重要。潜水土の実経験と新しい技術をマッチングする取組を、神戸が率先して行っていくというのも考えられる。
- ・ 昨年、日本財団が海のGDP調査を行ったが、神戸独自の統計データを活用し、海由来の観光や食を打ち出せたら全国的な先駆けとなる。
- ・ グリーンボンドやブルーボンドなど、ファイナンスの視点も重要。神戸はスコットランドとの連携を活かし、先行事例を調査してはどうか。

【連携とPR】

- ・海洋に神戸も力を入れていることを、地元で上手くアピールすべき。市民へのアピールという点では、口コミで広げるという視点も重要。
- ・JAMSTECは、産学連携の取組の見せ方や、小中学生に海の魅力をPRするのが上手い。地方拠点も総じて地元の方へのアピールをととても上手くやっている。
- ・「海プロジェクト（実海域での課題解決実証事業）」のプラットフォーム化などにより、上手くアピール。
- ・人材育成の取組により、子どもたちが海の魅力を知り、その周りの産業や学術を知り、将来の仕事につなげる種まきをする。それを聞いた保護者などが口コミで広げ、応援してくれる仕組みになると良い。
- ・地元の研究者・企業をプレイヤーにして目立たせる。ビジネスチャンスと感じてもらえる見せ方が大事。
- ・SDGs 項目の関心領域について学生 1,000 人にアンケートをとったところ、14 番「海の豊かさを守ろう」は上位 3 つに入った。目立つのが「海が好きだから」という選定理由。好きだから選ばれるゴールは他になく、こういった事が原動力になるのではないか。

○今後について

- ・「みなと」をキーワードに、幅広く海洋産業を考えるとともに、産学連携や市民等へのアピール方法、ファイナンスの視点などを踏まえた検討を進める。